

自らを使い尽くす愛

コリントの信徒への手紙Ⅱ 二章11〜21節

私は、あなたがたの魂のために大いに喜んで財を費やし、また、私自身をさえ使い尽くしましょう。あなたがたを愛すれば愛するほど、私はますます愛されなくなるのでしょうか。(15)

パウロは間もなく三回目のコリント訪問をしようとしていました。そこで誤解を避けるために、彼らに経済的な負担をかけるつもりはないことを前もって伝えます。わざわざこのように断らなければならなかったパウロは、どんなに悲しい思いをしていたことでしょう。それでもパウロは、伝道者魂をもって彼らに訴えます。「私が求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです」(14)。お金が欲しければ、パウロはとくに転職していたでしょう。パウロが求めていたのは、人々がキリストのもとに立ち返ることでした。そのためには、「大いに喜んで財を費やし、また、私自身をさえ使い尽くしましょう」とここで語ります。自分自身とその持ち物の全てを喜んで使い尽くして、人々を主イエスのもとへ連れ戻したいと願っていたのです。これこそ主イエスの心です。